



鶴居村ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地で豪雨や猛暑などがもたらす自然災害が頻発しており、その要因として地球温暖化が指摘されています。

2015年のパリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2°C 未満とし、 1.5°C に抑える努力をすることが合意されました。

また、国はこの目標を達成するため、2020年に当時の菅総理は所信表明演説において、「2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

これまで本村は、家庭用太陽光発電設備や木質系バイオマスを燃料とした暖房設備の導入助成、公共施設への地中熱ボイラーの採用により、再生可能エネルギーの活用を推進してきたほか、二酸化炭素の吸収源である森林の整備を推進するなど、地球温暖化防止に取り組んできました。

私たちの鶴居村には、釧路湿原やタンチョウなど固有の美しい自然環境があります。この美しい自然環境に恵まれたかけがえのない私たちの故郷を未来に引き継いでいくためには、地球温暖化問題は私たち人間の活動に起因していることを村民一人ひとりが認識するとともに、村が一丸となって取り組む必要があります。

本村は、今年度策定した第2次鶴居村環境基本計画に基づき、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの活用など、あらゆる施策を展開し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指します。

令和4年3月8日

鶴居村長 大石 正行